

入学オリエンテーションでの Youtube を用いた防災学習について

上月康則¹⁾・湯浅恭史¹⁾・松重摩耶¹⁾・根ヶ山須美子²⁾

¹⁾ 徳島大学環境防災研究センター ²⁾ 徳島大学総務部総務課

1. はじめに

徳島大学のオリエンテーションでは、学生が自然災害に対して安全安心な学生生活を送るために最低限必要な知識を理解し、災害への備えを学ぶ防災学習を行っている。本研究では、防災学習方法の効果を向上させることを目的に、Youtubeを用いた動画のアクセス状況及び学生アンケートの解析を行った。

2. 動画の内容、視聴方法と解析方法

動画は著者らが動画①②の2種類制作した。一つは全学部の学生が視聴し、二つ目はそれを改善し、一部のコースの学生のみが視聴した。事後には学生アンケートを行った。また対応分析を行い、学び方と態度変容の関係についても検討した。

動画のタイトルは「安全安心に学生生活を送るために～南海トラフ巨大地震や台風などの自然災害から命を守る方法～」とし、徳島大学生として知っておく最低必要なことだけに絞り、全44分間にまとめた。内容は、災害の危険性、災害をイメージする、災害への対処方法、災害への備え方に区分し、特に最後の約3分間は安否確認メールへの返信率を高めるための説明を丁寧にした。また動画内では重要な事項をクイズを設け、最後に大学から送信された安否確認メールに対し、返信するという安否確認の訓練も同時に行った。動画②は、テキスト、動画ともにクイズの正解は伏せて、直接動画を視聴しないと正解がわからないように改善し、社会基盤デザインコースの1年生84名に視聴させた。なお、解析は、学生を表1に分類し、行った。

3. 結果

3.1 動画に視聴状況

動画①は606人が視聴し、視聴率は全学で49%、安否確認メール返信率は25%であった(表2)。視聴した学生の視聴者維持率(最後まで見た人の割合)は約30%、平均視聴時間は6.5分、平均再生率(全動画で視聴された割合)は16.9%であった。

動画②を視聴した社会基盤デザインコースの学生の視聴者維持率は約60%、平均視聴時間は19.3分、平均再生率は42.2%とオリエンテーションでの動画視聴状況を表す数値の約2倍以上であった(表2)。また視聴者維持率は開始後、オリエンテーションと同様に急減するが60%程度で留まり、その後いくつかのピークが見られた(図1)。ピークの位置や減少するタイミングもオリエンテーションと同じものもあったが、当講義の方がピークでの視聴率の増加量は約二倍、⑤のようにすそ野の大きなピークを示す時もあった。最後の⑧では大きく増加し、視聴者維持率が100%に達した。

3.2 動画の評価

動画①視聴回答者の74人の意見を分類、件数をまとめると表3のようになった。感想の中で最も多かったのは、動画の評価で大半は「とてもわかりやすかった」「面白かった」「クイズ形式だったので楽しく視聴することができた」であった。次に多かったのは災害や防災への興味関心、意識を高めたという内容で、「南海トラフがもういつ起きてもおかしくないという状況になっていることを改めて再認識させてくれた」「一人暮らしなので災害が起こった時に焦らないように今一度災害、防災について考える機会になった」などであった。

3.3 防災行動を促した要因について

防災動画の満足度が、その後の防災行動に影響を与えるのかを確認するために、KHcoder3を用いて対応分析を行った。具体的には、「授業の満足度」に関する9段階の程度を外部変数とし、レポート課題に記載された「一週間で行った防災の取り組み」に関する自由記述の内容を抽出語(最小出現数1)として対応分析を行った。その結果、「授業の満足度」の程度については、防災行動の抽出語と関連性がみられた(図2)。例えば、受講

の満足度が高かった人（図中の満足度9）は「避難経路を家族と話す」といった他者との関りや、「避難経路を歩いてみる」といった避難路を確認するといった実践的で訓練にもなる防災行動を行っていた。一方、満足度が相対的に低かった人（図中の満足度6）は「防災グッズの準備」や「ハザードマップや避難場所の確認」といった、家の中で一人だけでもできるような防災行動を行っていた。なお、「満足度」と「理解度」との関係については、授業の総合的な「満足度」が高まると授業の「理解度」が増すことが明らかにされている¹⁾。

表2 動画視聴状況

	動画①視聴 学生C(A含む)	動画②視聴 学生A+, B
動画視聴率	49%	100%
安否確認メール返信率	25%	
視聴者維持率	約30%	約60%
視聴回数	882回	172回
総再生時間	100.6時間	56.1時間
平均視聴時間	6.5分/回	19.3分/回
平均再生率	16.9%	42.2%
ユニーク視聴者数	606人	105人
受講対象者数	1,248人	89人

※視聴者維持率：最後まで見た人の割合
 ※平均再生率：全動画における視聴された割合
 ※ユニーク視聴者数：実視聴者数

表1 解析対象とした学生

区分	概要
A	オリエンテーションの時に動画①を視聴した社会基盤デザインコースの学生、16件のデータ。
A+	動画②を見たあとの学生Aのデータ。2回防災動画を見ている。
B	必修時に初めて動画②を見た学生、58件のデータ。1回しか防災動画をみていない。
C	オリエンテーションの時に動画①を視聴した全学の学生のうち、回答のあった191件のデータ。

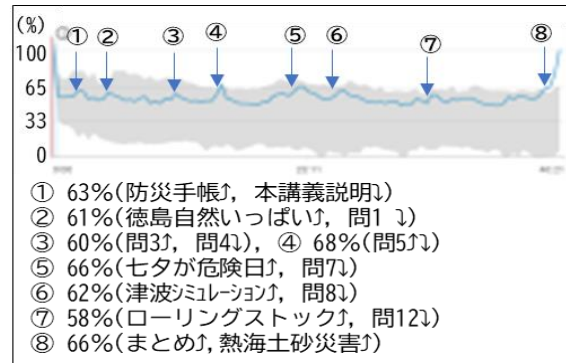


図1 視聴維持率（動画②）

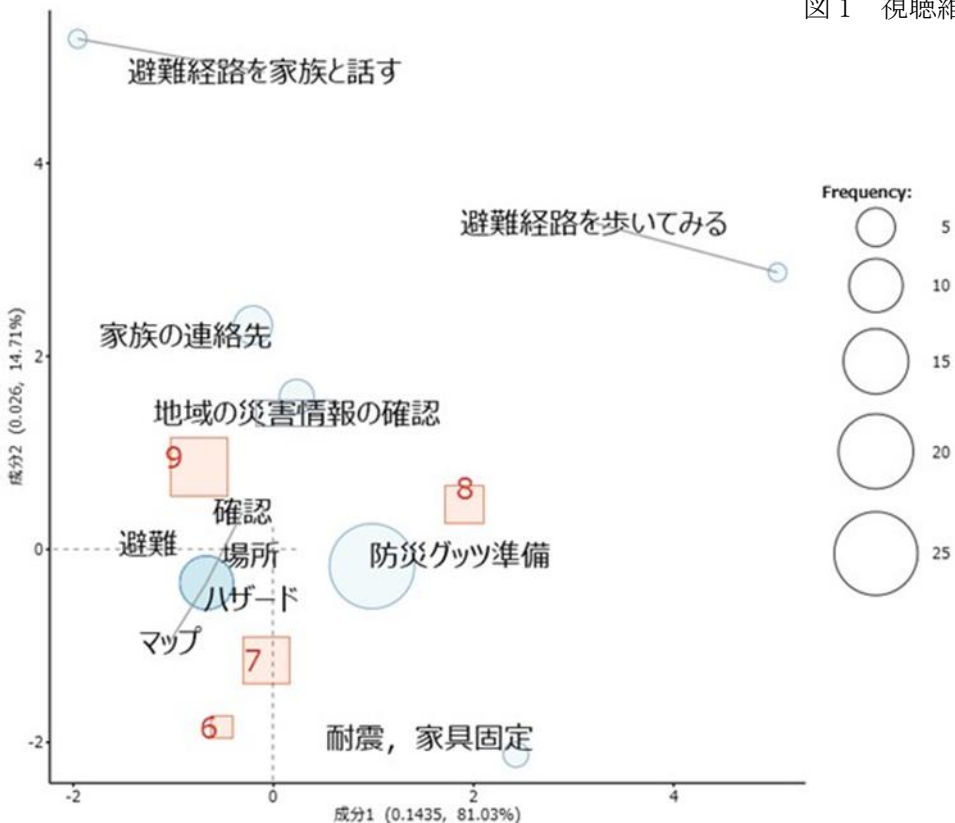


図2 満足度の程度と防災行動の関係（総抽出語数142）

4. おわりに

Youtube での防災学習用を効果的に行う上での留意点を見いだした。安否確認については、別途直接指導する機会を設ける必要があることもわかった。来年度にはこれらの点に配慮し、防災学習を実施する予定である。

参考文献

- 1) 星野敦子-牟田博光 (2003) 大学生による授業評価にみる受講者の満足度に影響を及ぼす諸要因, 日本教育工学会論文誌, 27, 213-216